

2020年度
慶應義塾大学入学試験問題

商 学 部

日 本 史

- 注 意
1. 受験番号と氏名は、解答用紙 A（マークシート）と解答用紙 B のそれぞれ所定の欄に必ず記入すること。さらに、解答用紙 A（マークシート）の受験番号欄をマークすること。
 2. 解答は、必ず指定された解答用紙の所定の欄に記入ないしマークすること。解答欄外の余白および採点欄には一切記入してはならない。
 3. 解答用紙 A（マークシート）への記入に先立って、用紙上に記載された注意事項を必ず読むこと。
 4. 解答用紙 A（マークシート）の解答欄にマークするときには、すべて HB の黒鉛筆を使用し、また、次の解答例に従うこと。
(解答例)

(12)

 と表示のある問いに対して、3 と解答する場合は、右に示すように解答欄

(12)

 の ③ にマークすること。
なお、2 桁の数字の場合には、以下のようにマークすること。
例えば、空欄

(19)

(20)

 の解答が 3 6 の場合、解答欄

(19)

 の ③ にマークし、解答欄

(20)

 の ⑥ にマークする。
 5. 問題用紙は下書きに用いてよろしい。
 6. この冊子の総ページ数は 8 ページである。

(12)
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩

試験開始の合図とともに全てのページが揃っているか確認してください。ページが抜けていたり重複するページがあったら直ちに監督者に申し出てください。

《指示があるまで開かないこと》

I. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

古代の日本列島の歴史をおいながら、それを知る上で参考となる資料を概観してみよう。

中国の史書では古代の日本は倭と称され、『後漢書』(1) (2)にある(3) (4)が倭の奴国の王に印綬を授けたという記事などから、(ア)1世紀以降、各地の首長が中国の皇帝と交渉を持っていたことがわかる。また、『魏志』(5) (6)からは、3世紀前半には邪馬台国を中心とした小国の連合が存在していた様子が知られる。その後、奈良盆地の勢力を中心にした政治連合、いわゆるヤマト政権が成立したと考えられている。それは、3世紀半ばから終わりにかけて作られたとみられる(7) (8)古墳など、他の地域よりも巨大な前方後円墳が奈良盆地に作られていることから推測される。

ヤマト政権が大王を中心に各地の豪族を統合していく過程についても、中国の史書と考古学的資料を組み合わせることで復元できる。『宋書』(9) (10)には、5世紀初めから中国に朝貢した(イ)倭の五王について記され、五王の最後のひとり「武」が中国の皇帝に差し出した上表文には、周囲の勢力を服属させたとある。考古学からは、5世紀の後半から大型の前方後円墳が近畿地方に集中することが明らかにされている。これは、大王の権力が大きくなり、大王以外は大型の(ウ)墳墓を作らなくなった結果だと推測される。なお、「武」は(11) (12)天皇にあたりと考えられており、大王の系譜がのちに天皇の系譜として整理されていったこともわかる。

5世紀以降、中国や朝鮮半島との交流が活発化すると、日本列島でも漢字が使われるようになり、様々な記録が残されるようになった。中国の学術が導入される中で、6世紀半ばには天皇の系譜を中心とした「(13) (14)」や神話や伝承を集めた「(15) (16)」などの歴史書が作成された。

589年、隋が中国を統一し、朝鮮半島の高句麗に進出するなど、東アジア情勢が緊迫する中、倭では蘇我馬子や(エ)厩戸王らが国家組織の強化をめざした。618年、隋の後をうけて中国を統一した唐が強大な帝国になると、倭でも唐の律令制を導入して、中央集権的な国家体制が整備されていった。「日本」という国号が使われるようになったのも律令制を導入した後のことである。国家意識が高まる中で、天皇による統治の正当性や国家の発展の過程を示すため、(17) (18)天皇のころ、史書や国史の編纂が始まった。「(13) (14)」や「(15) (16)」をもとに、神話から(19) (20)天皇までの歴史を記した『古事記』、さらには(21) (22)天皇に至るまでの歴史を記した『日本書紀』が編纂された。この二つの書物は古代の歴史を知る上では不可欠なものである。その後も、平安時代にかけて国史の編纂は続き、『日本書紀』から『(23) (24)』までの国史は「六国史」と総称されている。いずれも(25) (26)文を用いて記され、政治の変遷を知るための重要な資料である。

日本における律令では、律は唐のものを踏襲しているが、令は日本の社会に合うように修正して作成されており、そこから当時の(オ)行政組織や(カ)官僚機構について知ることができる。(キ)(17) (18)天皇が編纂を命じた飛鳥浄御原令は、689年に(21) (22)天皇により施行された。(27) (28)天皇の治世の701年には、(29) (30)や(31) (32)らにより、律と令がそろった大宝律令が編纂され、律令制による国家の見取り図が示された。さらに718年、(31) (32)らによって養老律令も編纂された。大宝律令は現存していないが、(33) (34)が編纂した『令集解』などから一部を復元できる。養老律令については、(35) (36)らが編纂した『令義解』も参照できる。

ただし、律令に示されているのはあくまでも国家や社会制度の理想像である。当時の社会の実態を知るには、各地で出土している木簡に記された、生活に密着した記録が参考になる。 (31) (32) の子である (37) (38) らによって自殺においこまれた、長屋王の邸宅跡からも木簡は出土している。

問1 文中の空欄 (1) (2) ~ (37) (38) に当てはまる最も適切な語句を下の語群より選び、その番号を解答用紙 A (マークシート) の所定の解答欄にマークしなさい。

《語群》

11 安康	12 安帝	13 允恭	14 応神	15 刑部親王
16 小野岑守	17 かな	18 漢	19 旧辞	20 清原夏野
21 欽明	22 草壁皇子	23 元明	24 皇極	25 光武帝
26 五色塚	27 国記	28 惟宗直本	29 誉田御廟山	30 持統
31 聖武	32 続日本後紀	33 推古	34 菅原道真	35 崇峻
36 地理志	37 造山	38 帝紀	39 天智	40 天皇記
41 天武	42 東夷伝	43 舍人親王	44 日本三代実録	45 日本文徳天皇実録
46 仁徳	47 箸墓	48 敏達	49 藤原宇合	50 藤原鎌足
51 藤原種継	52 藤原仲麻呂	53 藤原広嗣	54 藤原不比等	55 藤原冬嗣
56 藤原百川	57 武帝	58 源高明	59 都良香	60 文武
61 雄略	62 用明	63 良岑安世	64 履中	65 和漢混淆
66 倭国伝	67 倭人伝			

問2 以下の設問の解答を解答用紙 B の所定の解答欄に書きなさい。

- (1) 下線部 (ア) について、2 世紀に後漢の皇帝に奴隷160人を献上した倭の国王の名を漢字で書きなさい。
- (2) 下線部 (イ) について、倭の五王のうち、年代が最も古い王の名を漢字で書きなさい。
- (3) 下線部 (ウ) に関連して、7 世紀に特殊な形をした大王の墳墓が出現する。その墳墓の形式の名を漢字で書きなさい。
- (4) 下線部 (エ) に関連して、厩戸王の在世中、中国の天文・暦法を倭にもたらした百済の僧の名を漢字で書きなさい。
- (5) 下線部 (オ) について、律令制における八省のうち、外交や仏事を管轄した機構の名を漢字で書きなさい。
- (6) 下線部 (カ) について、五位以上の貴族の子が、父の位階に応じて一定の位を授かるという制度の名を4文字で書きなさい。

問3 下線部 (キ) に関連して、 (17) (18) 天皇のころ、「八色の姓」が制定された目的は何か。解答用紙 B の所定の解答欄に25字以内で説明しなさい。

II. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

徳川家康は征夷大將軍の宣下を受けて江戸幕府を開いたのち、諸大名に各郡村の石高を記した (a) と国絵図を提出させた。大坂の役の直後、幕府は諸大名を統制するため一国一城令と武家諸法度を制定した。この時の武家諸法度は、家康が南禅寺金地院の (39) (40) に起草させたものである。(41) (42) が幕府に無断で広島城を修築したとして1619年に罰せられた例が示すように、武家諸法度への違反には厳しい処分が下された。また、幕府は禁中並公家諸法度を発し、朝廷運営のあり方を定めた。その後、(43) (44) 天皇が幕府の許可なく着用を勅許した紫衣をめぐり、大徳寺の僧の(45) (46) らが処罰されるという事件が起きている。

幕政の安定を背景に、5代將軍徳川綱吉は忠孝と礼儀を重んじる政治を指向し、朝廷儀式についても一部の復興を認めた。続く徳川家宣および家継のもとで幕政の中心にあったのは、側用人の(47) (48) と(ア)新井白石である。白石は、綱吉の侍講を務めた (b) のもとで朱子学を学んだ人物である。白石らは(イ)新たな宮家の創設を進めたほか、家継と皇女の婚約を成立させるなど、天皇家との結びつきを強めた。18世紀後半になると、幕府の統制力にゆらぎが生じはじめる。その一因は尊王論の高まりで、天皇を王として尊ぶ思想は幕府の批判へとつながる危うさもあった。また、將軍(49) (50) の時代には、(51) (52) 天皇の実父への太上天皇の称号宣下をめぐって、これに反対する老中の松平定信らと朝廷との間で応酬が繰り返された。定信は、(53) (54) 藩主として飢饉対策などに手腕を発揮し、老中就任後は農村の復興をはじめとする改革を進めていたが、この朝廷との対立も一因となり、6年余りで老中職を退いた。

松平定信が老中の職を退く前年には、ロシア使節の (c) が日本との通商の可能性を探るために来航した。のちに発生したロシアとの紛争は、1811年に起きた (d) 事件の解決を機に収束したが、対外的危機はなお続いたことから、国家のあり方や幕府の政策をめぐって様々な主張が生まれた。1824年にはイギリス捕鯨船員が常陸大津浜および(55) (56) に上陸するという事件が起き、幕府は翌年に異国船打払令を出した。水戸学者の会沢正志斎はこのとき『(57) (58)』を著し、尊王攘夷思想にもとづく危機打開策を論じた。蘭学者の中には、『(59) (60)』を著した高野長英のように、幕府の対外政策を批判する者もあった。

一方、(ウ)水戸藩主の徳川斉昭は1838年に「(61) (62)」という意見書をまとめた。これは、対外的危機に加え、天保の飢饉を背景とする甲斐の郡内騒動や三河の(63) (64) 一揆さらには大塩の乱など騒乱が相次ぐ国内情勢に対し、幕政改革の必要を訴えたものである。その後、將軍(65) (66) のもとで老中の水野忠邦らが幕政改革を試みたが、失敗に終わる。この改革着手前に川越藩・庄内藩・(67) (68) 藩に命じていた三方領知替えに加え、改革の一環として水野らが江戸・大坂周辺の私領を直轄地にするために発した(69) (70) も撤回を余儀なくされたことは、幕府の統制力の衰えを示している。

外国からの圧力は、幕政のあり方に大きく影響した。開国を求めてペリーが浦賀に来航した際、老中の(71) (72) は朝廷にこれを報告するとともに、諸大名や幕臣に広く意見を求めた。また、幕府は国防力の強化に注力し、幕臣の軍事教育機関として江戸に設けた(73) (74) では西洋砲術も導入

された。しかし、対外政策をめぐる意見を統一することは困難をきわめた。アメリカからの通商条約締結の要求に対し、老中の (75) (76) は条約調印の勅許によって難局を打開しようと上洛したが、勅許は得られなかった。幕府の統制力の衰えをここにもみることができる。

問1 文中の空欄 (39) (40) ~ (75) (76) に当てはまる最も適切な語句を下の語群より選び、その番号を解答用紙 A (マークシート) の所定の解答欄にマークしなさい。

《語群》

- | | | | | |
|----------|----------|---------|---------|---------|
| 11 阿部正弘 | 12 安藤信正 | 13 井伊直弼 | 14 隠元隆琦 | 15 越後柏崎 |
| 16 円空 | 17 海軍伝習所 | 18 海国兵談 | 19 開成所 | 20 加茂 |
| 21 紀伊 | 22 棄捐令 | 23 国後島 | 24 黒田長政 | 25 桑名 |
| 26 経済録 | 27 経世秘策 | 28 契沖 | 29 顕如 | 30 元文 |
| 31 航海遠略策 | 32 光格 | 33 講武所 | 34 後桜町 | 35 小西行長 |
| 36 後水尾 | 37 後桃園 | 38 後陽成 | 39 酒井忠清 | 40 薩摩宝島 |
| 41 三閉伊 | 42 自然真営道 | 43 上知令 | 44 白河 | 45 慎機論 |
| 46 新論 | 47 崇伝 | 48 仙台 | 49 沢庵 | 50 伊達宗城 |
| 51 徳川家定 | 52 徳川家斉 | 53 徳川家治 | 54 徳川家茂 | 55 徳川家慶 |
| 56 徳川吉宗 | 57 長岡 | 58 長崎 | 59 日本外史 | 60 根室 |
| 61 肥前 | 62 人返し令 | 63 福島正則 | 64 保科正之 | 65 戊戌封事 |
| 66 戊戌夢物語 | 67 堀田正俊 | 68 堀田正睦 | 69 松平慶永 | 70 松前 |
| 71 間部詮房 | 72 明正 | 73 柳沢吉保 | 74 柳子新論 | 75 霊元 |

問2 文中の空欄 (a) ~ (d) に入る最も適切な語句を解答用紙 B の所定の解答欄に、(a) と (b) は漢字で、(c) と (d) はカタカナで書きなさい。

問3 以下の設問の解答を解答用紙 B の所定の解答欄に漢字で書きなさい。

- (1) 下線部 (ア) について、新井白石が公家政権や武家政権の推移を段階区分し、独自の歴史観を示した書物は何か。
- (2) 下線部 (イ) について、この時に創設された新しい宮家を何というか。
- (3) 下線部 (ウ) について、徳川家斉が創設した水戸藩の藩校を何というか。

Ⅲ. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

幕末期の日本は、産業革命をすでに経験していた欧米諸国と比べて工業技術が大きく立ち遅れていた。そのため、本格的な対外貿易が始まると、日本からは主として農水産物とその加工品が輸出された。最大の輸出品目であった (77) (78) に関しては、開港後から簡単な手動装置を使った (a) という製法による生産が拡大した。

日本で本格的な機械化による生産性向上が最初に実現したのは、綿紡績業においてである。(79) (80) 年の構想をもとに、(81) (82) 年に設立された大阪紡績会社などが大量生産に成功した結果、綿糸の輸出量は1897年に輸入量を超えた。

産業革命と軍備拡張が進んだ明治後期においては、(83) (84) の近くに設立された官営八幡製鉄所の例にみられるように重工業資材の国産化が図られた。また、1896年に航海奨励法とともに公布された (b) のもとで船舶建造に対して補助金が支払われるなど、政府による重工業振興策もとられた。ただし、拡大する鉄鋼・機械の需要を満たすだけの生産能力を持つには至らず、19世紀末から20世紀はじめにかけて貿易赤字が続いた。ところが、第一次世界大戦が勃発し欧州諸国からの輸出が滞ると、アジア諸国向けの (85) (86) など日本からの輸出が急増し、貿易黒字が実現した。このことは日本国内に余剰資本を生じさせ、重工業における生産能力の拡大を可能にするとともに、(ア)日本の資本家による海外投資を促した。

第一次世界大戦後に欧州諸国の商品が日本を含むアジア市場に再び流入するようになると、日本製品はシェアを奪われ、貿易収支は赤字に転じた。一方、(イ)第一次世界大戦中に事業を急拡大させた企業の多くで業績が悪化し、それらの企業に融資していた銀行の経営を圧迫した。

大戦間期における日本の貿易は政府の為替政策からも強く影響を受けた。1930年に (87) (88) 蔵相のもとで金輸出が (89) (90) されると、為替レートが (91) (92) に設定されたため輸出は減少した。そして、日本経済は世界恐慌の波及もあいまって、物価の下落が著しい、いわゆる (93) (94) の状態に陥った。この (93) (94) を伴う恐慌からの脱却は、(95) (96) 蔵相のもとで金輸出が再び (97) (98) されるとともに積極的な財政政策がとられたことで実現した。1932年から為替レートが (99) (100) に転じたことを受けて、(85) (86) を中心に輸出が拡大する一方で、重工業は積極財政に支えられた軍備拡張のもとで成長した。

日中戦争の勃発以降、貿易の流れは大きく変わった。軍備拡張を続けるうえで貿易の統制が必要となり、そのために政府は1937年9月に (c) を制定した。1939年7月には、アメリカによる (101) (102) 条約の廃棄通告を機に、軍需物資の調達問題が大きく浮上した。同じころ、南方進出によって石油・(103) (104) などの資源を獲得しようという陸軍の主張が強まっていった。1941年7月の (105) (106) によって南進政策が本格化すると、アメリカが対日石油輸出を禁止するなど、経済封鎖が強化された。太平洋戦争の開戦後は、1942年6月の (107) (108) を機に日本軍が劣勢に転じ、ほどなくして制海権が失われたため、南方からの資源の海上輸送は困難となった。

敗戦後の日本において、国際競争力を持つ工業部門が発展するに至った背景には様々な要因があるが、GHQの施政下で行われた経済の民主化もその一つと考えられる。(ウ)農地改革と労働改革は長期的には国民の所得向上をもたらし、これによって耐久消費財等に対する安定した民間需要が生まれた。また、1946年

に発足した（ d ）が財閥から譲り受けた株式を公売する形で実施された財閥解体や、1947年に成立した（109）～（110）のもとで始まった^(エ)カルテルの禁止や企業結合の監視などは市場における競争を活発化させた。海外から導入した先進技術や自ら開発した新技術をもとに、各企業が積極的に設備投資を行った結果、産業全体としての技術力と生産能力が急伸したのである。

問1 文中の空欄（77）～（78）～（109）～（110）に当てはまる最も適切な語句を下の語群より選び、その番号を解答用紙A（マークシート）の所定の解答欄にマークしなさい。

《語群》

- | | | | |
|--------------|--------------|------------|---------------|
| 11 1877 | 12 1882 | 13 1887 | 14 1892 |
| 15 浅野総一郎 | 16 アッツ島の玉砕 | 17 石橋湛山 | 18 犬養毅 |
| 19 井上準之助 | 20 インパール作戦 | 21 インフレ | 22 円高 |
| 23 円安 | 24 岡田啓介 | 25 解禁 | 26 過度経済力集中排除法 |
| 27 川崎正蔵 | 28 生糸 | 29 絹織物 | 30 禁止 |
| 31 刑法改正 | 32 毛織物 | 33 ゴム | 34 財政危機 |
| 35 斎藤実 | 36 サイパン陥落 | 37 渋沢栄一 | 38 シンゴラ上陸 |
| 39 スタグフレーション | 40 石炭 | 41 高島炭鉱 | 42 高橋是清 |
| 43 筑豊炭田 | 44 茶 | 45 デフレ | 46 天然ガス |
| 47 独占禁止法 | 48 南部仏印進駐 | 49 日米修好通商 | 50 日米通商航海 |
| 51 日米和親 | 52 端島炭鉱 | 53 浜口雄幸 | 54 古河市兵衛 |
| 55 北部仏印進駐 | 56 マリアナ沖海戦 | 57 マレー半島上陸 | 58 三池炭鉱 |
| 59 ミッドウェー海戦 | 60 民法改正 | 61 綿織物 | 62 レイテ沖海戦 |
| 63 若槻礼次郎 | 64 ワシントン海軍軍縮 | | |

問2 文中の空欄（ a ）～（ d ）に入る最も適切な語句を解答用紙Bの所定の解答欄に漢字で書きなさい。

問3 以下の設問の解答を解答用紙Bの所定の解答欄に漢字で書きなさい。

- (1) 下線部（ア）について、日本の資本家が中国各地に設立した紡績会社や紡績工場を総称して何と呼ぶか。
- (2) 下線部（イ）について、鈴木商店への過剰な融資がきっかけで経営が悪化し、金融恐慌時に休業を余儀なくされた銀行の名称は何か。
- (3) 下線部（ウ）について、第二次農地改革を実現する目的で、農地調整法の再改正と並行して制定された法律の名称は何か。
- (4) 下線部（エ）について、カルテルの取り締まりや企業結合の監視などを任務として設置された行政機関の名称は何か。

《以下余白》
 一、
 二、
 三、

四、
 五、
 六、

七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、
 五十一、
 五十二、
 五十三、
 五十四、
 五十五、
 五十六、
 五十七、
 五十八、
 五十九、
 六十、
 六十一、
 六十二、
 六十三、
 六十四、
 六十五、
 六十六、
 六十七、
 六十八、
 六十九、
 七十、
 七十一、
 七十二、
 七十三、
 七十四、
 七十五、
 七十六、
 七十七、
 七十八、
 七十九、
 八十、
 八十一、
 八十二、
 八十三、
 八十四、
 八十五、
 八十六、
 八十七、
 八十八、
 八十九、
 九十、
 九十一、
 九十二、
 九十三、
 九十四、
 九十五、
 九十六、
 九十七、
 九十八、
 九十九、
 一百、

一百零一、
 一百零二、
 一百零三、
 一百零四、
 一百零五、
 一百零六、
 一百零七、
 一百零八、
 一百零九、
 一百一十、
 一百一十一、
 一百一十二、
 一百一十三、
 一百一十四、
 一百一十五、
 一百一十六、
 一百一十七、
 一百一十八、
 一百一十九、
 一百二十、
 一百二十一、
 一百二十二、
 一百二十三、
 一百二十四、
 一百二十五、
 一百二十六、
 一百二十七、
 一百二十八、
 一百二十九、
 一百三十、
 一百三十一、
 一百三十二、
 一百三十三、
 一百三十四、
 一百三十五、
 一百三十六、
 一百三十七、
 一百三十八、
 一百三十九、
 一百四十、
 一百四十一、
 一百四十二、
 一百四十三、
 一百四十四、
 一百四十五、
 一百四十六、
 一百四十七、
 一百四十八、
 一百四十九、
 一百五十、
 一百五十一、
 一百五十二、
 一百五十三、
 一百五十四、
 一百五十五、
 一百五十六、
 一百五十七、
 一百五十八、
 一百五十九、
 一百六十、
 一百六十一、
 一百六十二、
 一百六十三、
 一百六十四、
 一百六十五、
 一百六十六、
 一百六十七、
 一百六十八、
 一百六十九、
 一百七十、
 一百七十一、
 一百七十二、
 一百七十三、
 一百七十四、
 一百七十五、
 一百七十六、
 一百七十七、
 一百七十八、
 一百七十九、
 一百八十、
 一百八十一、
 一百八十二、
 一百八十三、
 一百八十四、
 一百八十五、
 一百八十六、
 一百八十七、
 一百八十八、
 一百八十九、
 一百九十、
 一百九十一、
 一百九十二、
 一百九十三、
 一百九十四、
 一百九十五、
 一百九十六、
 一百九十七、
 一百九十八、
 一百九十九、
 二百、